



最近の学生のアルファベット筆記体に関する考え並びにペン筆写の効用と提案

著者	豊永 知恵子
雑誌名	仏語仏文学
巻	37
ページ	263-280
発行年	2011-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10112/00017279

最近の学生のアルファベット筆記体に関する 考え並びにペン筆写の効用と提案

豊 永 知恵子

最近筆記体は中学校で教えないそうである。筆者は、学習効果上の観点から教えるべきだと考えている。

I きっかけ

筆記体を読めない学生がいることに筆者が気付いた経過を述べる。二十年ほど前のこと。デイクテの採点を学生同士でさせたところ、小さな声で「(友達の手記体の)文字が読めません。」と申し出た学生がいた。このことが、長年筆記体について考えるきっかけとなった¹⁾。

その何年か後、『ふらんす』4月号(白水社)²⁾にフランス語固有の筆記体が紹介された。フランス語のこの筆記体を当時日本で目にするのは稀であった。この筆記体をコピーしてしばらくは学生に自習用として配布していた。

授業ではB5版のカードを出席カードとして使用し、毎日の日付をフランス語で書かせている。四月の第一回目、avrilを筆記体で板書するのだが、10年ほど前なら、読めなくて、コソコソ隣に尋ねる者がいる程度³⁾。その何年か後は、全員が初めて見る文字といった反応で、一斉に凍りつく。最近になると複数の学生から挙手で「板書は活字体で書いて下さい。」との要望が堂々と言われる。今年に至っては、「中学の先生が知らなくていいと言った。」との発言まで飛び出した。

相当数の大学生が筆記体を読めない、書けないということはわかには信じられなかった。しかし、もしやと思い中学の英語教師をしている

知人に尋ねると「教えていないですねえ」とのこと。

II

II-1 実態

今回、この実状を調査すべく筆記体に関するアンケートを行った⁴⁾。筆者と同様の思いからアンケートを行った富山真知子氏の論文⁵⁾で取り上げている項目を参考にさせて頂いた。またフランス語の筆記体と英語のそれとは全く同一というわけではないが、ここでは問題にしない。

回答者は、68名。内訳は以下のとおり。

私の担当である平成22年度関西大学工学部通年「フランス語 I ab」(週1回) 51名、同じく、帝塚山大学法学部秋学期「フランス語(2)」(週2回) 8名。(聴講生1名を含む。)

比較の為、29歳から63歳までの、筆者参加の読書会の仲間9名にもアンケートを依頼。読書会の各会員年齢は、29、40、45、45、49、55、56、61、63である。

質問項目は以下の①～⑪(はい、いいえ、その他を選択)で、その内⑨～⑪はペン筆写体験の感想で、学生のみでの回答である。まず、アンケートの結果から見ていく。数字は百分率も併記した。理由などの自由記述の言葉遣いに関しては、内容は変えずに表現のみ変更したものがある。

① 「あなたは筆記体を大学入学以前に習いましたか」 表1

回答項目	百分率(%)	実数(68名) (うち学生 58)
はい	33.8	23 (うち学生 14)
いいえ	57.8	39 (学生のみ)
その他	8.8	6 (うち学生 5)

学生58名(関西大学51名帝塚山大学7名)のうち中学校で習ったのは14名(24.1%)。これは多いか少ないか? 提出物に書かれた文字から考えると、ほとんど習っていないように思っていたので、中学校の先生の中でも意外と意欲的な方がいると感じる。しかしながら独学で学習した5名

と合せても19名のみで、学生58名中約32.7%に過ぎない。比較として、読書会会員では49歳の1人のみが独学。最も若い29歳は中学で年配の先生に習ったとのことである。

II-2 質問②から⑧

②～⑧の回答について検討する。まず用語について説明しておく。(②～⑧で使用)

年配者の記述は学生と区別するため『 』を使用。

「大学以前」：大学以前に習った学生14名と独学5名の19名の回答

「大学以後」：大学で初めて習った学生39名の回答

「学生総数」：双方を合わせて58名の回答

『年配者』：29歳以上の10名の回答

百分率はそれぞれの人数に対する割合である。

② 「あなたは筆記体が読めますか。」

表 2

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	89.4(17)	48.7(19)	62.0(36)	(9)
いいえ	0.0(0)	30.7(12)	20.6(12)	(0)
その他	10.5(2)	20.5(8)	17.2(10)	(1)

注：表で、前の数字は百分率、()内は実数、以後同様。

現時点では筆者のクラスの学生の6割、少し自信の無い「その他」も含めると8割が何とか読める。読める理由として
大学以前「大学の授業で本格的に習えたから。」

「中学2年の春に読み書きを徹底的に練習させられたから。授業の板書が筆記体だから。」

「中1の頃、夏休みの宿題でたくさんやったため。先生が中高校で授業中はいつも筆記体で板書していたため。」

大学以後「フランス語の授業で習ったから。」

「海外に行った幼なじみと文通していたから。」

「フランス語の授業で習っただけなので、かなり崩されると読めません。」

全員に宿題として何度も書かせたので「いいえ」とは言ってもらいたくないが、「その他」がやや多いのはきちんと身に付けていないということか。意識して練習することが大事。一昔前のほうが基礎教育をきちんと行っていたと言えよう。

③ 「あなたは筆記体を書けますか。」

表 3

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	94.7(18)	41.0(16)	58.6(34)	(9)
いいえ	0.0(0)	33.3(13)	22.4(13)	(0)
その他	5.2(1)	25.6(10)	18.9(11)	(1)

これも「その他」を含めると8割が何とか書ける。「その他」と回答した理由は以下のとおり。

大学以前「書けると思うけど、お手本がないとあんまり自信はない。」

大学以後「1文字ずつなら。つなげては書けない。」

「大文字は一部書けない。」

筆記体は一筆書きのように、切らずに書かねばならないと思っているようだ。つながって見えるように書けばいいのだが。

『年配者』の一人は『大文字の一部があやしいので。』『その他』と回答。

④ 「あなたは筆記体を使いますか。」

表 4

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	57.8(11)	23.0(9)	34.4(20)	(8)
いいえ	36.8(7)	69.2(27)	58.6(34)	(2)
その他	5.2(1)	7.6(3)	6.8(4)	(0)

これは4割強が使うという。ここでは「はい」の回答に対してどういう

時に使うのか尋ねた。

大学以前「数学のときに x , y 等を使う。」

「6とbなどの紛らわしいときに、 δ と表記。」

「人名を書くとき、強調するとき」

大学以後「急いでいるときやメモ程度に。」「ノートを取るとき」

「フランス語、数学、化学」

「自分用のメモの時やブロック体より分かりやすい時など、例
9→ φ 」

年配者『ほぼどんなときでも』『手紙やカードを書くとき』

使うのが、数学や化学のときというのは、なるほどと思い至った。以前、二人の学生が「英語の先生ではなくて、数学の先生が筆記体について教えてくれた。」と発言したことを思い出す。

⑤ 「筆記体を書けることはよいことだと思いますか。」

表5

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	52.6(10)	79.4(31)	70.6(41)	(10)
いいえ	21.0(4)	2.5(1)	8.6(5)	(0)
その他	26.3(5)	17.9(7)	20.6(12)	(0)

現時点では筆者のクラスの学生の7割、少し自信の無い「その他」も含めると9割が書けることはよいことと回答している。ここでは少数意見「いいえ」を挙げる。

大学以後「活字体で十分だと思うから。」「必要ないから」

「ブロック体で書けばよい。相手が読めないと無意味。」

「書けたらいいとは思うがかけなくても問題は無い。」

「はい」の中には大学以後に学習した者の記述で「アルファベットの本来の書き順が自然と身に付くから。」と「書けるということは読めることにつながると感じる。」があり、筆者も同様の意見である。それにしても、「いいえ」の内容は近視眼的に思える。

⑥ 筆記体を書けることは必要だと思いますか。

表 6

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	31.5(6)	28.2(11)	29.3(17)	(7)
いいえ	42.1(8)	53.8(21)	50.0(29)	(1)
その他	26.3(5)	17.9(7)	20.6(12)	(2)

必要性を問うと半数が「いいえ」、しかし年配者は1名に過ぎない。

「いいえ」の理由は以下のとおり。

大学以前「ブロック体でも通じるから。」

「書けなくても困らない。」

「書けるほうが良いとは思いますが、学校であまり教えないから。」

大学以後「必要だと思う場面に遭遇したことが無いため。」

「筆記体しか読めない人はいないと思うから。」

このあたりが中学で後回しにされる理由だろうか。しかしながら学校で教えるのは必要で、教えないのは必要でないということであれば、よく言われるところの世界史を習っていないのは、必要でないからということになる。このように必要性が無いと思うのは、今までは、自分の体験として必要性に乏しかったというだけのことであろう。今後のことを考えるに、余りに考え方が近視眼的である。

「はい」の理由は以下のとおり。

大学以前「やっぱり他の人の筆記体も読めるから。」

大学以後「国際的な世の中になってきて筆記体で書かれている文章もよくあるから。」

「外国とのかかわりが多くなっている国際化社会となっているので外国人と筆記でのやり取りを行うことがあれば役に立つ。」

将来のことを考えると、何が必要になるかわからないので、年配者の意見にもあるように『英語(仏語)を勉強しているのだから筆記体を書けることは基本のひとつだと思う。』

⑦ 筆記体を書けるようになりたいですか。

表 7

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	63.1(12)	76.9(30)	72.4(42)	(5+3)
いいえ	5.2(1)	15.3(6)	12.0(7)	(0)
その他	31.5(6)	7.6(3)	15.5(9)	(2)

年配者には無回答が3名だが、③で9名が書けると回答しているので実質、「はい」が8名と考えられる。学生の約半数が必要ないと言いつつ、大多数が書けるようになりたいと思っている中で、少数派「いいえ」の理由は以下のとおり。

大学以前「もう、書けるから」

大学以後「使わないから。」「別にブロック体は書けるので。」

これに対し書けるようになりたい積極的な理由は以下のとおり。

大学以前「少し出来てから、フランス語の授業をより真剣に受講するようになったから。」「手記などが読める」「ノートが取りやすい。」

大学以後「スラスラ書けることで頭への入りも良さそう。」

「もっとうまい字を書けるようになりたい。」

「筆記体のほうが書くスピードが速くなるから。」

年配者『カリグラフィーなど美しい文字が書きたい。』

「その他」としての回答の「自然に書ければいいと思う。書けるようになるために時間をかける必要は無いと思う。」には筆者は大いに賛成である。ところが現実には、大部分の学生はなぜか自然に書けるようにはならないのだ。

⑧ 筆記体で書かれたものを読んでみたいですか。

表 8

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	年配者(10)
はい	36.8(7)	30.7(12)	32.7(19)	(7)
いいえ	57.8(11)	64.1(25)	62.0(36)	(1)
その他	5.2(1)	5.1(2)	5.1(3)	(2)

8割から9割の学生が書けるようになりたいと言いつつも、読んでみたいのは「その他」を入れても4割に満たない。

読んでみたい理由を4つに分けて検討する。

大学以前「はい」

「外国の文書に少し興味があるから。」「手記などが読みたい。」

「筆記体が好きだから。作家の直筆文など筆記体で書かれたものを読みたい。」「いろいろとあって見ていて面白いから。」

中学で学びアルファベットになじんでいる。内容も積極的である。

大学以後「はい」

「読めたらかっこいいから。」「読む練習になる。」「頭よさそう。」「

外国に行ったとき便利だから。」「読めるのなら読みたい。」「

もっと慣れる為に。」

大学で始めたが表面的なことにあこがれがあり、積極的である。

大学以前「いいえ」

「物を読むのは好きではない。」「目が疲れそう。」「時間がかかる。」「

読むことは出来るがすらすらとは読みにくいから。」「

読むことを強要されるなら読みますが、、」「興味が無いから。」「

中学でせっかく習っていても文字を読む楽しさを知らない。遠くから眺めているだけの感じがする。

大学以後「いいえ」

「興味が無い。」「難しそうだから。」「読むのがしんどそう。」「

読むのに普段より時間がかかるから。」「読めないから。」「

大学で習ったが、関心が低い。残念なことだ。

ここで言えることは、「読みたくない」のは、どちらかという、食わず嫌いのように見える。眺めているだけで、筆記体が読めるようになるのは難しそうと想像している。何か、きっかけがあれば、好きになるのではと考えるのは、期待のし過ぎだろうか。筆記体にどんなイメージを持っているかが大きく作用していると思われる。一方「読みたい」理由

からは、大学で初めて筆記体を習ってもそこから知的な関心が高まる可能性が大いに期待できる。

②から⑧まで通して眺めると、大学に入学するまでに習っていなかった学生は、その他の質問も否定的であるが、しかし、書けることはよいことで、必要とは思わないが、書けるようになりたいと考えているようだ。その理由は、「活字体で十分、相手が読めないと書いても無意味」、でも、書ければ「きれいにみえる、書くスピードが速くなる、人の書いたものが読めるようになる」から書けるようになりたいということか。

II-3 質問⑨から⑪ 実際書いてみて

筆者のクラスでは2009年から筆記体で書かれた既習の文の筆写を宿題にしている^{6. 資料1}。それもペン（万年筆）使用とした。今では“使い捨て”の200円ほどの安価な万年筆がある。

アンケートの最後にペン書きについて、主な自由記述を以下に紹介する。ペン書き練習をしたのは学生と聴講生の59名であるが②～⑧に合わせて、百分率は聴講生をはずし58名で見ていく。この⑨～⑪の記述は、簡単に言えば、筆記体が書けるようになってよかった、というわけだ。が、行間には筆記体の読み書きができなくて自信を失いかけた学生の、分かることの楽しさが伝わってくるのでなるべく沢山紹介する。

⑨ 「筆記体の練習をしてみて、よかったですか」

表9

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	聴講生
はい	73.6(14)	79.4(31)	77.5(45)	(1)
いいえ	5.2(1)	7.6(3)	6.8(4)	
その他	21.0(4)	12.8(5)	15.5(9)	

大学以前「前よりスラスラ書けるようになった。」「筆記体を書くのも読むのもあやふやだったので、少しましになった。」「クセが直った。」

「英語と仏語の筆記体は違うことが分かった。」「フランス語に対して意欲的になったし、とても面白いと感じた。」「日常生活の中では、めったに正しい筆記体を書くことが無かったと思うから。」

大学以後「ほとんど書けなかったのが出来るようになった。」

「今まで筆記体を勉強することが無かったので良い機会になった。」

「字の丁寧さというかバランス等を考えて書くようになるから。」

「少しずつ筆記体の文字が分かってきた。」「今まで英語の先生とかが何気なく黒板に書く筆記体が読めなくて困ることがあったから。」「分からなかった書き順が分かった。」

「これで、外国に行ける。」「昔から筆記体は書きたいと思っていたから。」「全く知らないよりは少し知っておいたほうが良いから。」「ちょっとは使えるようになった。」「急いで適当に書いても読めるから。」

「ノートを取るときに字を書くのが速くなった。」「中途半端にしか筆記体を書けなかったので、ちゃんと書けるようになってよかった。」

「筆記体が前よりすらすら読めるようになった。」

否定的な記述

「筆記体に時間をつぶすのはどうかと思う。」「ブロック体と筆記体で違う単語を覚えるみたいでしんどい。」「(中学で習った学生がその他の意見として) 中学で習った筆記体と違うところがあって戸惑った。」

⑩ 「筆記体の練習をして、何か変化はありましたか」

表10

	大学以前(19)	大学以後(39)	学生総数(58)	聴講生
はい	47.3(9)	46.1(18)	46.5(27)	(1)
いいえ	47.3(9)	53.8(21)	51.7(30)	
その他	5.2(1)	0.0(0)	1.7(1)	

大学以前「筆記体が上手く書けるようになったこと。」「忘れていたアルファベットの形を思い出した。」「綺麗になって読みやすくなった。」「だいぶ読めるようになった。」「少し丁寧に書くようになりました。」

「英語で使う筆記体もきれいに書けるようになったから。」『活字体、ブロック体は味気ないと思う。』

大学以後「先生が書く筆記体が読めるようになった。」「一段とキレイに書けるようになった。」「すばやく書けるようになった。」「きれいに書こうと意識するようになった。」「文字の全体のバランスを考えるようになった。」「筆記体を使う先生の文字が少し理解できた。」「英語の授業で速く書かなければならないときは、筆記体で書くようになりました。」「普段アルファベットを書くときの速さが少し速くなった気がする。」

「変化があった」のは半数ほどで、それ以外は変化が感じられるほどは練習していないともいえる。それに対して「よかった」のは8割ほどになりどんなものか分かっただけでもよかったということか。

⑪ 「万年筆（インクのペン）を用いて文字を書いてみて、いかがでしたか」ここは自由記述のみ。

大学以前「新鮮でおもしろかった。」「まず筆記体をほとんど書いたことが無く、しかも万年筆も使ったことが無かったので、最初はすごく書きにくくて大変でしたが、書いていくにつれて上手く書けるようになり、楽しくなりました。」「ペンに表裏があったりしたり、速く書かないと滲んだりしたりして大変でした。」「インクで書くと筆記体が書きやすいなと思いました。（鉛筆よりも）必要ないかもしれないけれど、きちんと筆記体を書けるのは格好良いと思うので、書けるようになりたいです。」「なんとなく自信がつくようになった。」「書いた字がきれいに見えた。」「意外と楽しかったです。」「“はね”や“はらい”がでていいと思う。」「形が汚いのがはっきりと実感できた。」「万年筆はとても書きやすく、いい練習になったと思いました。これは日本語にも応用できるかと思います。」『日本語でも（タテ書きにすると特に）その流れるような文字の連続性が表現できるので、心地よい。滑らせるように書いていくので、慣れると書き心地が良

い。濃淡、強弱（太細）など文字に表情がでるので面白い！』「最初は書きにくかったが、慣れてくると書きやすくなった。」「インクにムラが出て少し使い辛かったです。」「読み書きは出来ても、時間がかかるから書こうとは思わない。よい経験だと思う。慣れれば楽かも。」

大学以後「インクは消せないのが不便。」「書道をやっていたので、万年筆は、僕個人は嫌ではない。」「書きやすかった。」「書けるようになってほんとはよかったです。」「なかなか初めて使ったので滲んだりかけなかったり苦戦したけど慣れたらすごく使いやすくて、これから使っていきたいと思った。」「書くのが難しかったが書き心地がよかった。」「ボールペンとかに比べると滑らかにかけた。」「なんか力の入れ加減が超・難しかったし、ふだん使うことないから、手に無駄な力が入りとても疲れた。慣れたら確かに使いやすいのだろうな一と思ったがインクドバーってなってめっちゃ手が汚れたこともあった。まわりからかっこいいといわれた。」「中学の頃習字を少ししていたので万年筆は使ったことがあった。しかし、持ち方を指摘されたのは初めてだった。でも最近ではインクの濃さや、すらすら書けるようになったと思う。」「インクは出るが僕は筆圧が強いのでにじみやすく、使いにくい。慣れるまで時間がかかりそう。」「なにを書いてもきれいにみえた。」「最初は写すだけになっていたため、万年筆のよさを生かせていなかったが、慣れてくると、文字の流れが分かり、書きやすかった。」「訂正が難しい分、一文字一文字でいねいに書く癖がついた。」「いい経験だった。」「今まで万年筆を使う機会がほとんどなかったので、使えてよかった。ペンとは違って書きやすかった。」「慣れない間は手も汚れるけど慣れてきたらボールペンより書きやすかった。」「万年筆で字を書くときのためのいい練習になった。」「もともと文房具が好きで、つけペンや、万年筆、筆ペンなどで字を書いたり、絵を描いたりしていたので楽しかったです。今はインクの色にこだわってインクを選んでいますが、そのうち、

書きやすさ、耐水性などにこだわってインクを選んでみたいです。つけペンのペン先も、今は日本字ペンを使っていますが、他のGペンなどのペン先も使ってみたいです。」「書けば書くほど書きやすくなっていくように感じた。」

「安いペンで書いたので書きにくかった。シャーペンのほうが書きやすかった。」「あまり良さが分からなかった。」「シャーペンなどを使っているときと書きやすさは変化なかった。ボールペンよりは書きやすい。」「書きにくい。」「インクが滲んだり、変な形の文字になったりして難しかった。」「書きにくかった。特に万年筆で書く必要性を感じなかった。」

万年筆（ペン）使用体験は、比較的良い印象を持ってきていることに嬉しさとする種の驚きも感じている。また多くが速く書けると言っている。10回足らずの筆写でここまで来るのなら、やらない理由は無いのではないだろうか。

Ⅲ

Ⅲ-1 万年筆（ペン）の使用

筆記用具については、鉛筆、シャーペン、ボールペンと様々であるが、一昔前は進学祝として万年筆を頂いた人も多いと思う。

筆者にもいつの間にか使わなくなり仕舞い込んでいた万年筆があった。自分の二三の身近な体験から⁷⁾最近になってそれを探し出し新しく息を吹き込むと長い間忘れていた感覚が戻った。この味を知らない学生には是非にと考えた次第である。

もうひとつ。フランスでは小学校のつづり字の学習でペンを使用すると聞く⁸⁾。実際に書けば分かることだが、実にうまくペン先が閉閑し文字の太い、細いが出る。その上、万年筆（ペン）はいわゆる正しい持ち方をしなければ、ペン先が紙の繊維に引っかかってうまく書けない道具だ。

すでに述べたが、最近では性能のいい安い万年筆が手に入る。大学生協で尋ねると「履歴書売り場に置いています。」今でも履歴書を書くため

に需要があるのだそうだ。ならば1年生のときに使ってみておくのも無駄にはならないと思い、学生にペン書きをさせることにしたわけである。

Ⅲ-2 万年筆（ペン）の効用

筆記体を教えるのが目的であったが、万年筆を使用するとペンの持ち方が正しくなり、余分な力を入れることなく紙の上をすべらせて書くということが出来るようになる。楽に書くことが出来れば、新出単語を何度も書いて手で覚えることが可能になる。アンケートの自由記述にもあるように学生にもこのことが感じられたようである。

これに先立ち、平成22年の夏期休暇直前に学生のペンを持つ手を写真に撮ってみた⁹⁾。10回ほど筆写宿題をこなした結果である。典型的なものを二名挙げておく。（資料2を参照）

男子学生は右利き、女子学生は左利き。上の写真は万年筆で書く場合、下の写真はボールペンやシャーペンで書く場合である。両者とも下の図では無意識に力が入っているし、子供時代の握りこむ持ち方そのままであるが、上の図では、力の入れ方が緩やかになっている。そうでないとクルクルと手首を回す筆記体は書けないからだろう。特に親指の位置に注目してほしい。

Ⅳ 提案

以上のことから次の二点を提案したい。

- ① 筆記体については出来れば義務教育中に紹介し、なぞり書等で、負担無く、しかし繰り返し練習させることで、身に付けさせたい。板書では、大学でも先生方は遠慮なく、せめて筆記体と活字体をまぜてでも使っていたきたい。
- ② 道具は万年筆を使用。
ペンの持ち方の矯正が期待できるのでぜひ、試していただきたい。
余談ではあるが、“使い捨て”万年筆を小学生にも与えて、これで書

写の時間に「あいうえお」を書かせてはどうか。

V おわりに

筆記体は、活字体を知っていれば簡単に書けると思うのだが、どうもそうではないらしい。学生を見ていると、学ぶ時期を逸してしまうと簡単なことでも非常に難しいものに思えるようだ。

筆記体を練習すれば書き順については自然に覚える。

筆記体を中学時代に学習していれば、活字体の書き順もそれに準じて、大きく崩れることなく書けるだろう。

文字は社会的なものだから、自分だけが分かればいいというわけにはいかない。相手に伝わるように書かなくてはならない。また、情報機器の発達で、読めればいいという時代の風潮に逆らうことは出来ないが、基本語については正確に記憶するのが望ましい。そのためには、眺めているだけでは不十分で、手で何度も書いて体に覚え込ませることが求められる。書いて覚えるには、書くことが負担になってはおぼつかない。そこで、小学校時代の鉛筆の持ち方指導が重要な意味を持つ。

今回のテーマで参考文献を探したところ、各分野の方々が関心をお持ちであることが分かった。たまたま筆者は担当の学生に対しフランス語を通してではあるが、少しは基礎教育のほころびを繕えたかと思っている¹⁰⁾。

インクや紙に対する知識を得て、万年筆という道具を大切に使う心が養われ、人類の重要な発明である文字を楽しんで書いてもらえれば、親指酷使のデジタル時代に少しでも人間性が取り戻せるのではないだろうか。

(本学非常勤講師)

参考文献

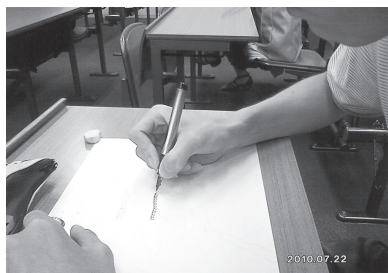
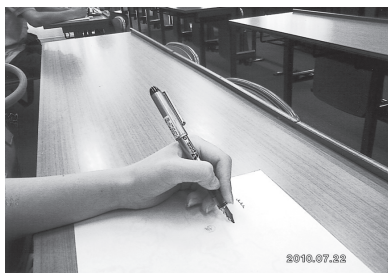
- 「特集 学力大不安」『週刊ダイヤモンド』2008.04.05 pp.32-85
- 「ペンの持ち方がヘン・若い女性に蔓延（若者）」『Asahi Shimbun Weekly AERA』1999.11.29 pp.42-43
- 澤田博「筆記体の危機」『世界週報』2006.11.14 pp.66-67
- 押木秀樹、近藤聖子、橋本愛「望ましい筆記具の持ち方とその合理性および検証方法について」『書写書道教育研究』17, 2003 pp.11-20.
- 齊田ゆかり・宮下充正「幼児の fine motor skill の発達 — 2～6 歳児の鉛筆の持ち方」『体育の科学』杏林書院体育の科学社 v.28 1978 pp.412-418
- 立屋敷かおる、山岸好子、今泉和彦、「小中学生における箸の持ち方と鉛筆の持ち方との関連」『日本調理科学会誌』Vol.38, No.4, 355～361 2005 [ノート] NII-Electronic Library Service より。
- 桐村雅彦「書写における筆記具と持ち方(I)」p.440 NII-Electronic Library Service より。
- 桐村雅彦「書写における筆記具と持ち方(III)」p.409 NII-Electronic Library Service より。
- 屋名池誠『横書き登場』(岩波新書) 岩波書店 2003. 11. 20
- 『初級フランス語 I』編集者・発行者 A・ヘグリ、E・ビルマン、柿山隆、村岡隆義、暁星学園 昭和59年8月25日改訂

注

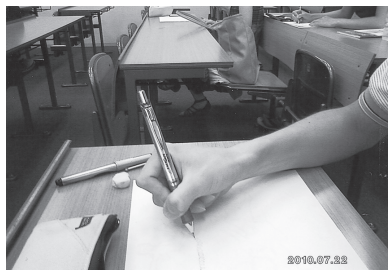
- 1) 学習指導要領「ゆとり教育路線」(1980年より実施)の頃の教育を受けた学生か？
注1, 2, 3の学習指導要領の実施時期については、週刊ダイヤモンド誌の孫引きである。
- 2) 川竹英克「フランス語で書くときは」『ふらんす4月号』白水社
1999. 4 pp.82-85。この文字は、すでに英語の筆記体が書けるものにとっては面白い。
学習指導要領「新しい学力観」(1992年より実施)の頃か？
- 3) 学習指導要領「生きる力」(2002年より実施)の頃か？
- 4) 筆者のアンケート：帝塚山大学は2010. 11. 9、関西大学は11. 12実施。
- 5) 富山真知子「筆記体が読めない、書けない大学生」『大学時報』Mar. 2007 pp.98-103。
- 6) 筆者は、参考文献の中の教科書『初級フランス語 I』p.viiのアルファベットをお手本として書いている。『ふらんす』の文字は初心者にとってはあまりにもフランス独特に見えるので初めて練習するにはもう少し分かりやすいほうがいいと思う。資料1へ。

- 7) 体験その1：6年前、姪の中学の進学祝に万年筆をと考えていたのだが、その父親から「最近あまり使わないから時計を」といわれたことに当時軽いカルチャーショックのような感覚におそわれた。
- 体験その2：3年ほど前の叔母の発言。「人前で何か記入するとき万年筆で書くとそれを見て相手が、ほー、万年筆ですかーと、懐かしそうに言われるのよ。」
- 8) フランス語教科書
Marie-Emmanuelle Muramatsu 『マンガの国のレア』 駿河台出版社 2010. 12. 1 pp.50-51。
- 9) 平成22年度帝塚山大学春学期「フランス語(1)」クラス、2010. 7. 22撮影。
- 10) 少し話題がそれるが、基礎教育として、日本語のシとツの区別、アとマ、クとワといったことも気になる点である。また、アルファベットは横に書く、漢字は縦に書くのが本来の文字の姿である。社会の要求ですべて縦書きというわけにはいかないが、基本を学習させるときは本来の姿に沿った練習が望まれる。

資料2



万年筆を使用



ボールペン、シャーペンを使用

資料1 第一回目の筆写宿題は、以下のとおり。用紙はB5。

Voilà un musée. C'est le Louvre.
 Il y a une voiture dans la cour.
 C'est la voiture de Marie.
 Paul danse très bien.
 Mais il ne chante pas bien.
 Parlez-vous anglais? - Oui, un peu.
 Bonjour, Bonsoir, Au revoir
 Monsieur, Madame, Mademoiselle.
 messieurs-dames. à bientôt
 Ça va? - Oui. Et toi?
 Je m'appelle Céline Dion. Luc Besson.
 Hideo Abe, Akiko Yamamoto
 Combien de doigts?
 Tu as bien dormi? Dormez bien!
 Jean-Henri Fabre, Napoléon.
 Marie-Antoinette, tulipe, escargot